

令和元年度  
第2回 高P連高校生育成員制  
香長地区運営委員会

【報告書】

日 時 令和2年1月27日（月） 13：30～14：15  
会 場 サザンシティホテル 3階 ガーデンホール

# 運 営 委 員 会 次 第

参加者14名

## 1 開会行事

- (1) 開会のことば 中元 浩史（委員長／城山高等学校PTA会長）
- (2) 高P連会長挨拶 小串 和久（高知県高等学校PTA連合会会長）
- (3) 自己紹介 各校
- (4) 日程説明 中元 浩史（委員長／城山高等学校PTA会長）
- (5) 議長選出

## 2 議 事

- (1) 令和元年度第2回高校生育成員制連絡研修協議会の内容について（別紙）  
事務局校より令和元年度第2回高校生育成員制連絡研修協議会次第内容についての説明と確認。
- (2) 高P連事務局より  
令和2年度の主な年間計画（別紙資料）の説明。  
年度別学区中学校卒業者数（別紙資料）の説明。  
各県予算集計表（別紙資料）の説明。  
提案事項；令和3年度より会費を600円に値上げする。（了承）各地区全て承認後高P連総会にて提案していく。
- (3) 協議事項・来年度の活動方針について  
各校からの協議事項は特になし。  
本年度の活動方針の確認と来年度に事務局校より提案する。
- (4) 令和2年度以降の香長地区高校生育成員制連絡研修協議会について  
R2年度…高知東工業高校 R3年度…高知農業高校  
R4年度…山田高校 R5年度…嶺北高校  
R6年度…城山高校の順番通りで確認される。
- (5) その他  
高P連事務局より  
中四国P連・全国P連大会への参加者数、香長地区から2名の表彰（城山高校と東工業高校、自転車ヘルメット推進について、助成金について、来年度の中四国P連大会は広島開催、全国P連大会は島根開催などの説明

## 3 閉会行事

閉会のことば ：中元 浩史（委員長／城山高等学校PTA会長）

## 運営委員会（1回目確認資料）

### （1）令和元年度 香長地区活動方針について

#### 提案事項（確認）

- ① 「情報通信機器の適切な活用・マナー向上と生活リズムの確立」
- ② 「自転車運転時のヘルメット着用、交通マナーの向上」（付け加えた）
- ③ 「いじめ防止への取り組み」

#### 提案理由

- ① スマホや携帯電話等の使用上の問題、メール・ブログ等への誹謗中傷の書き込みによる生徒間でのトラブル、有害サイトへの立ち入り、過剰な使用による生活リズムの乱れ等、情報通信機器に関する問題は深刻化している。最新の研究では、スマホ使用と学力の関係性も明らかにされつつある。生徒の健康、学力向上、健全育成などの面から、欠くことのできない課題であると考えます。
- ② 各校とも生徒の交通事故や交通マナーに関する問題を抱えているようであり、生徒の命を守る取組として継続する必要がある。また、今年4月「高知県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」の施行により、保護者に対して、18歳までの児童等へのヘルメットの着用について努力義務が規定された。
- ③ いじめに関する国の基本方針も大きく変わり、社会通念上のいじめと法律上のいじめに大きな差異が生じ、いじめに関する取組が学校だけの問題にとどまらず、社会全体で考えなければならないものになっている。

#### 確認事項

- ・「バイクの3ない運動」の継続について

学校や地域の事情などを考慮すべきであるが、高知市周辺地区としての交通事情等を考えると、取り組みを継続する必要がある。

令和元年度  
第2回 高P連高校生育成員制  
香長地区 連絡研修協議会

【報告書】

日 時 : 令和2年1月27日(月) 14:30~17:15  
協議会会場 : サザンシティホテル 3階 クリスタルホール  
南国市明見 933 TEL:088-863-2000

【会次第】

I 開会行事（14：30～14：40）

- 1 開会の言葉  
中元 浩史（委員長／城山高等学校 PTA会長）
- 2 高知県高P連会長挨拶  
小串 和久（高知県高等学校PTA 連合会会長）
- 3 高知県教育委員会 挨拶  
合田 和久（高知県教育委員会事務局 主任社会教育主事）
- 4 香長地区事務局長 挨拶  
山下 英雄（事務局長／城山高等学校長）
- 5 来賓紹介

II 現況報告（14：40～15：25）

- ① 少年非行・犯罪について  
南国警察署 生活安全課長 杉本 秀和 氏
- ② 自転車ヘルメット着用推進について  
高知県教育委員会 学校安全対策課長 中平 文男 氏
- ③ 保険説明

III 講演（15：25～16：35）

演 題：「災害ボランティア活動」

講 師：高知県社会福祉協議会

高知県ボランティア・NPOセンター所長 間 章 氏

《休憩》

IV 全体会（16：45～17：15）

1 「生徒指導」「PTA活動」について（P2～）

生徒指導及びPTA活動における成果や課題について〈各校より報告〉

- 1) 高知東工業高校
- 2) 高知農業高校
- 3) 山田高校
- 4) 嶺北高校
- 5) 城山高校

2 その他

V 閉会行事（17：15～）

閉会の言葉

中元 浩史（委員長／城山高等学校 PTA会長）

## 【Ⅱ 現況報告】

### ① 南国警察署 生活安全課長 杉本 秀和 氏

《配布資料をもとに説明》

- 非行少年の状況…全国、高知県下、南国署管内で減少傾向。
- しかし、検挙補導の割合…高校18%（去年と同じ）中学校10%（去年も同じ）割合は減っていない。
- 補導された生徒が減少した理由…警察の活動が低調、外で活動する子供の減少。
- 子供がまきこまれる犯罪の変化（スマホ、ネット等）…SNS、動画サイトの正しい使い方できているかチェックするのが先生、親の仕事→子供の変化への気づき、何か心配事があれば警察へ。

### ② 高知県教育委員会 学校安全対策課長 中平 文男 氏

《配布資料をもとに説明》

- 県内でも通学途中の生徒の死亡率が発生。
- ヘルメット着用、保険加入の促進
- ヘルメット助成制度…現状として1000件あまりの申請、400件あまりの購入である。
- ヘルメット着用が進まない理由、事故は向こうからやってくるためヘルメット着用・保険の加入を進めていく。

各校の事例

- 海洋高校；生徒の死亡事故えおうけ校則に取り入れる。
- 須崎総合；PTAが中心となり自転車通学の生徒のヘルメット一括購入。
- 室戸高校；生徒会が中心となり活動。（校則で強制することも可能だが「自分の命は自分で守る」「何のためにヘルメットをかぶるのか」という生徒の意識を育てる。

### ③ 保険説明

《配布資料をもとに3社より説明》

- 高知県高P連PTA賠償責任保険（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社）
- 高P連自転車総合補償制度（三井住友海上火災保険株式会社）
- 高校生総合補償制度のご案内（東京海上日動火災保険株式会社）

[質疑応答]

特になし

【Ⅲ 講演】

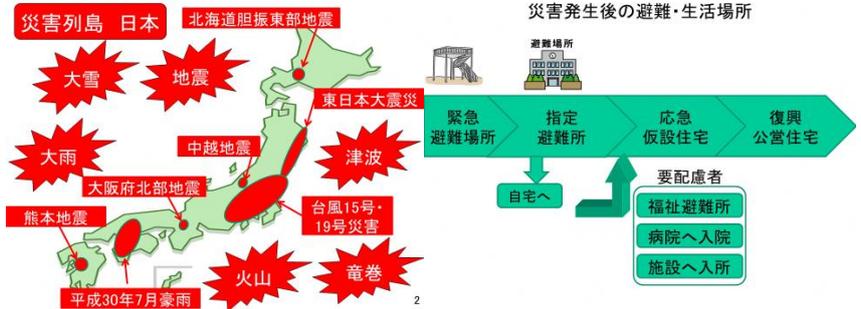
演題：『災害ボランティア活動』

講師：高知県社会福祉協議会 高知県ボランティア・NPOセンター所長 間章氏

《配布資料をもとにパワーポイントにて説明》

災害ボランティア活動  
～復旧・復興に向けた力～

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会  
高知県ボランティア・NPOセンター  
所長 間章



災害支援を通しての気づき



① 命の尊さ

- ・今も続く震災関連死
- ・障がい者の死亡率は2倍
- ・欠落していた高齢者・障がい者対策
- ・口先だけの共生

かけがえのない「生命」



② 支援のあり方

- ・“支援”という名の凶器
- ・男性中心の現場
- ・小さな変化に気づく女性
- ・立ち上がる子どもたち

感じた「変化」



③ ボランティアの力

- ・東日本大震災では200万人が活躍
- ・心のケア、励まし、きめ細かな支援
- ・立ち上がる若者

復興への「追い風」



災害ボランティアの活動内容

- 家屋の片付け、家財の移動
- 泥除去、災害ゴミの搬出
- 避難所や仮設住宅の生活支援（炊き出し、買い物支援など）
- 得意技を活かした活動
- 仮設住宅への引越しのお手伝い
- 被災した人の交流の場づくり（お茶会、サロン、○○教室など）
- イベントの開催

災害時にボランティアが活躍した理由



① 数の力

- ・1日1,000人以上も
- ・大量の作業を一気に対応できる

② 個別対応

- ・1軒1軒の声に合わせた対応ができる

③ 寄り添い

- ・声なき声に耳を傾けることができる

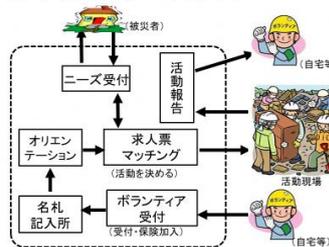
被災状況の映像が、  
たくさんのボランティアの心を動かした！

災害ボランティアセンターとは

ボランティアの「想い」と「チカラ」と被災地の人々の「ニーズ」をつなぐ拠点



災害ボランティアセンターの仕組み



若者 大人 復興の力

$$1 + 1 = \infty$$

- ・若者に刺激される大人たち……
- ・斬新なアイデアが支援を阻む壁を破る……

1月17日は忘れない……

突然目の前が真っ暗になり  
あちこちで真っ赤な炎があがっていた  
叫び声が聞こえ サイレンが鳴り響いていた  
多くの人が貴い家族を失った

わたしたちは過信していた 科学技術を、近代都市を  
わたしたちは忘れていた 共に生きているということ  
を支えあうことの大切さを  
皮膚にもそれを教えてくれたのがあの震災だった  
頼るべき家族がたおれ 自らも力尽きようとした時  
手を差し伸べてくれたのは  
地域の人々やボランティアの人々だった  
手に持てるだけの物を持って  
彼らは助けに来てくれた

組織の思いでなく一人ひとりが  
自分の思いで助けあった  
子どもたちも自分の意志を持って  
自分の責任で行動し、家族を支えていた  
あのときのひたむきな人々の表情  
人間のつながりの貴さを  
わたしたちは決して忘れないだろう

わたしたちはかけがえの無いものを代償に  
身を持って痛感することができた  
この思いを、その貴さを  
地球上の人々に伝えなければならない  
だから 1月17日は忘れない

2005年1月17日  
「1.17 人類の安全と共生を考える兵庫会議」

【Ⅳ 全体会】

1 「生徒指導」「PTA活動」について

※生徒指導及びPTA活動における成果や課題について〈各校より報告〉